

小平市国民健康保険データヘルス計画について（概要）

1 計画策定の目的と背景

電子化が進む健康診査や診療報酬明細書等の健康・医療情報は、地域の医療費分析や健康課題の把握など、被保険者の健康維持増進を図るための多角的な分析を可能にした。

「日本再興戦略」（平成25年6月14日閣議決定）においては「全ての健康保険組合に対し、レセプト等のデータ分析、それに基づく加入者の健康保持増進のための事業計画として「データヘルス計画」の作成・公表、事業実施、評価等の取組を求めるとともに、市町村国保が同様の取組を行うことを推進する。」とされ、保険者はレセプト等を活用した保健事業を推進することとされた。

こうした背景を踏まえ、本計画は、保険者が健康や医療に関する情報を活用して被保険者の健康課題の分析等を行うとともに、PDCAサイクルに沿った効果的かつ効率的な保健事業を実施するための実施計画（データヘルス計画）を策定した上で、保健事業の実施及び評価を行うものである。

2 計画期間

平成27年度から平成29年度までの3か年とする。

3 医療費分析の概要

(1) 対象データ

・ 医科、調剤の電子レセプト 平成26年4月～8月診療分（5か月分）

レセプト件数：月間平均 51,387件

・ 健康診査データ 平成26年7月（1か月分）

特定健診受診者：3,198人

(2) 大分類による疾病別医療費統計

医療費		傷病名例	
1位	循環器系の疾患	14.8%	脳内出血、脳梗塞など
2位	新生物	14.2%	がん、白血病、ポリープなど
3位	精神及び行動の障害	8.8%	総合失調症、うつ病など
4位	筋骨格系及び結合組織の疾患	8.3%	関節リウマチ、骨粗しょう症など
5位	内分泌、栄養及び代謝疾患	8.0%	糖尿病、高脂血症など

レセプト件数

1位	循環器系の疾患	14.0%	
2位	内分泌、栄養及び代謝疾患	12.2%	
3位	消化器系疾患	11.1%	肝硬変、胃炎など
4位	筋骨格系及び結合組織の疾患	9.5%	
5位	呼吸器系の疾患	9.1%	かぜ、気管支炎など

PDCAサイクル 事務事業の計画（PLAN）、実施（DO）、評価（CHECK）、改善（ACTION）というマネジメントサイクル（循環過程）を確立し、成果を重視した継続的な改善を行い、限られた資源（ヒト、モノ、カネ）を効率的・効果的に活用するためのシステムをいう。

(3) 中分類による疾病別医療費統計

医療費

1位	腎不全	5.5%
2位	高血圧性疾患	5.2%
3位	その他の悪性新生物	4.8%
4位	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	4.3%
5位	その他の消化器系の疾患	4.0%
6位	糖尿病	3.9%

※ 患者一人当たりの医療費でも、腎不全が最も高額

(4) 年齢階層別医療費の傾向

60歳以降医療費が急激に増加する。年齢階層別医療費でみると0歳～24歳では「呼吸器系の疾患」、25歳～59歳では「精神及び行動の障害」、60歳～74歳では「循環器系の疾患」がそれぞれ上位を占めている。

(5) 生活習慣病

腎不全、高血圧性疾患等、生活習慣病を原因とする疾病が医療費統計において高い割合を占めている。糖尿病は人工透析に至る可能性が高く、人工透析患者のうち78.9%が生活習慣を起因とする糖尿病から悪化し透析に至っている。

4 予定される事業

(1) 特定健康診査・特定保健指導を基盤とする生活習慣病予防

特定健康診査・特定保健指導を最大限に活用し、一次予防・二次予防を実施する。また、健診を受診しているが異常値を放置している患者等への受診勧奨を行う。

(2) 生活習慣病の重篤化リスクのある患者への重症化予防

生活習慣病の重症化予防が必要な病期にあたる患者や生活習慣病の治療を中断している患者を特定し保健指導を行い、定期的な受診を促す。

(3) ジェネリック医薬品普及率の向上

ジェネリック医薬品に切り替え可能な先発医薬品を服用している患者を特定し、切り替えを促す通知を行うことで、普及率の向上を目指す。

(4) 受診行動適正化（重複受診者・重複服用者等に対する受診行動指導）

対象者を特定し、適正な受診行動を促す指導を保健師等により実施する。